

2024年4月1日
第574号
(毎月1日発行)

咲いたネット
URL：
http://www.saitanet.or.jp
Eメール：
saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル
TEL 048-838-0771
FAX 048-838-0775
編集発行人
埼玉県労働組合連合会
【定価】1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

ストライキや経営者要請に決起、地域も支援
3・14全国統一行動

3月13日の回答を受け、24春闘最大のヤマ場となった14日の全国統一行動では、県内でも朝のストライキ決起、日中の経営者要請行動、夕方は大宮駅西口での宣伝行動と、終日にわたり大奮闘しました。

午前8時30分から埼玉医労連の全日赤

さいたま、民医労(埼玉協同病院)、勤医会みさと分会(みさと協立病院)、全医労東埼玉支部(国立病院機構東埼玉病院)で30分のストライキを含む決起集会が行われました。全日赤さいたまのスト



埼玉民医労が時限ストライキ

集会には、さいたま地区労・前島議長、埼玉連・宍戸事務局長、建交労埼玉合同支部・齋藤書記長が激励に駆けつけ、マスコミでは埼玉新聞、しんぶん赤旗が取材にきました。スト集会後、埼玉医労連委員長も務める宮本まき子さんが囲み取材に対応しました。

民医労は埼玉協同病院の敷地内で46人が参加してストライキ集会を実施、埼玉連から西口副議長(自治労連委員長)、建交労トラック部会・白原事務局次長が支援に駆けつけました。民医労は30分のスト集会後に20分間、組をつくって埼玉連の最賃署名に取り組み、職員だけでなく患者さんからも237筆を集めました。

また、勤医会みさと分会のストライキに占部副議長(コープネットグループ労組委員長)、三郷市労連・松田議長、全医労東埼玉支部の宣伝行動に加藤幹事、蓮田地域労連から中澤事務局長が支援に駆けつけました。

JMITU埼玉地本は、東鋼業支部、日信工業支部、東京セキスイ背部支部、芝浦電子支部で経営者要請を実施。埼玉連から新島議長が通し参加、東鋼業支部



大宮駅西口でストライキ実施の報告

に草加八潮地区労・金井副議長、東京セキスイハイム支部に蓮田地域労連・村山議長、芝浦電子支部にさいたま地区労・前島議長が経営者要請に参加しました。

夕方は大宮駅西口で埼玉連加盟単産の県本部役員などが37人集まり、午後5時30分から6時30分まで大宣伝行動を実施し、日中の行動の報告と訴え、シール投票などにとりくみました。地域では、坂戸・鶴ヶ島地区労、AOI労連、加須労連が最賃宣伝と合わせて、24春闘宣伝を実施しています。

(3面に3・7中央行動と埼玉労働局要請、4面・5面に春闘関連の単産・地域のとりくみを掲載)

紙面から

- 3.14全国統一行動 (1面)
- 24春闘の取り組み・地域 (5面)
- 働くなかまの春をよぶつどい (2面)
- 最低生計費調査の案内 (6面)
- 24春闘の取り組み・単産 (4面)
- 埼労共のページ (8面)

2024年問題を学ぶ 働くなかまの春をよぶつどい

毎年、春闘期に労働法制度を学び交流する「働くなかまの春をよぶつどい」（埼玉春闘共闘、埼玉連女性部・非正規部会、労働法制埼玉連絡会の共催）が2月25日（日）、さいたま共済会館で開催され、オンライン参加も含め100人以上が参加しました。

今年度は「働き方改革関連法」の問題―法規制の『強化』と脱法行為―をテーマに埼玉ユニオンなど組合

の弁護でも活躍している伊須弁護士に講演してもらいました。

講演では、働き方改革としてすめられている長時間労働の是正と多様で柔軟な働き方の実現などについて、そもそも時間外労働の上限規制がないに等しい現状や日本経団連が労基法のさらなる形骸化を狙った「労使自治」を軸とした労働法制提言の危険性を指摘しています。

一方で、労働時間や雇用期間の脱法行為、労働協約の反故が横行するも、労働組合の存在とたたかいたが大きな力を発揮していることを労働委員会や裁判の実例を示し参加者を激励しました。

その後、事例報告として「フリーランスの働き方」（出版労連）、「狭山図書館司書雇止めとたたかいた」（自治労連）、「ヤマト運輸リストラ問題をきっかけとする労働組合の結成」（建交労）について、当事者から現場の理不尽な労働実態の告発と、労働組合に結集して雇用の確保と労働



オンラインを含め100人以上に



伊須弁護士の講演

条件改善のために奮闘していることが報告されました。

フリーランスとして働くことの苦勞、会計年度任用職員という任用制度への変更がきっかけで、突然雇止めになった当事者の制度に対する理不尽さへの憤りなど、実際に体験した生の報告と労働組合の存在によって助けられた経験の報告を聞き、参加者した仲間から「あらためて労働組合の大切さとたたかう意義を確認することができた」と感想が寄せられるなど、春闘期に行う意義が確認できた学習集会となりました。

残念ながら集会後の宣伝は、雨天のため中止となりました。

訃報

埼玉連2代目議長を務められた川野幸徳（かわの・ゆきのり）さんが3月10日に逝去されました。川野さんは、出身である埼玉建の初代書記長として、1971年から1992年まで埼玉建の組織建設に多大な貢献をされ、埼玉連議長としても、1993年から1998年まで、労働委員会の民主的任命実現の先頭に立って奮闘されるなど労働者の権利改善にご尽力されました。謹んでご冥福をお祈りします。

JMITUが回答確約求め要請

JMITU埼玉地本は2月28日（水）に、3月6日の回答指定日に、要求にもとづく回答を行うよう、事前の経営者要請を実施しました。

埼玉地本の役員が2コースに分かれ、10支部・分会を訪れ、支部組合員といっしょに各経営者に対して回答確約を要請しました。

要請行動には支部・分会の職場がある地域組織から支援にかけつけ、さいたま地区労が芝浦電子、サンウエーブ、日本製罐に、所沢地区労が村松フルートに、AOI労連が自動車精工に、蓮田地域労連が東京セキスイハイムに、草加



日信工業での要請

最賃の再改定求め 埼玉労働局に団体署名を提出

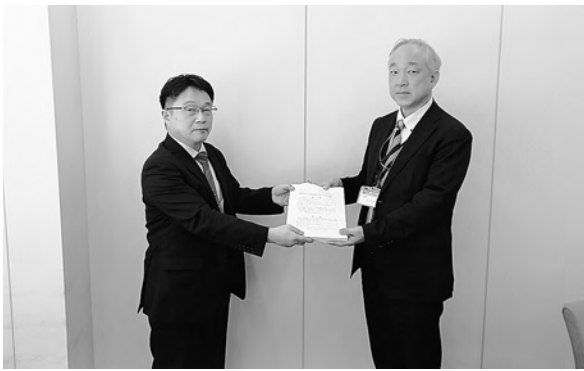
3月4日(月)に、「最賃の再改定」を求める要求一点で埼玉労働局賃金室と懇談を行いました。

今年も、最賃の再改定を求める団体署名の形式をとり、短期間とりくみながら220団体から署名を集め、賃金室長に署名を提出し懇談をおこないました。埼玉連からは、新島議長、占部副議長、小澤副議長、加藤幹事が参加、労働局は生木谷室長と大村室長補佐が対応しました。

懇談では、物価高騰で苦しい生活をしている仲間の実態を報告しながら、諸外国では物価に対応して年に複数回最賃の改定が行われていることも訴え、最賃の再改定を強く求めました。

賃金室長から「同じ消費者として物価高騰で生活実感がきびしいことは理解できる。まして最低賃金近傍で働く労働者ならよりきびしいことは肌感覚として感じている」としながらも、厚生労働省・中央審議会との関係で、埼玉労働局独自で勝手に再改定を議論することにはならないと、要請については否認しました。しかし、「こうした要望があったことは上に伝える」と厚労省への報告については回答がありました。

団体署名を提出



今回の懇談で、改めて今の最低賃金制度の課題、特に中央審議会主導で進められる有り方の問題点がはつきりとしたので、全労連がすすめる最賃アクションプランの実現をめざすとりくみが求められます。

物価に負けない大幅賃上げ求め 3・7中央行動で総決起

全労連・国民春闘共闘委員会は3月7日(木)、東京・霞が関周辺で24春闘中央行動を終日、展開しました。12時10分から日比谷野外音楽堂で開いた中央総決起集会には全国の仲間約2000人が結集し、「物価高騰に負けない大幅賃上げ」「最低賃金を今すぐ全国一律1500円以上に」の実現を訴えました。

あいさつした小畑雅子代表幹事



中央集会に2000人参加

(全労連議長)は、大企業が内部留保を増やし続け、株価は過去最高を更新する一方で、実質賃金は20カ月以上もマイナスとなっており、日本経済の異常さを指摘し、「日本を賃金上がる国に変えていくためにも、私たち労働者のたたかいが求められている。要求に団結し、ストライキを構えて毅然とたたかい抜くことで大幅賃上げを勝ち取ろう」と力強く呼び掛けました。

全労協の渡辺洋議長が来賓あいさつをおこない、「最低賃金1500円を今すぐ実現しなければならぬ」と述べると、会場内から「そのとおり」と賛同の声が上がりました。国会からも、日本共産党の田村参議院議員、大石参議院議員があいさつに駆け付け、春闘での大幅賃上げに連帯するあいさつをおこないました。

黒澤幸一事務局長は「自分たちにとって追い風の春闘。財界・大企業が賃上げせざるを得なくなつたのは私たちのたたかひの成果」



院内集会に10人の議員が参加

と激励。1カ月半超のストで25%の賃上げを獲得した全米自動車労組からメッセージが届いたことを紹介し「世界の労働者と連帯してたたかおう」と力を込めました。

集会後には、国会請願デモと最賃院内集会・署名提出行動がおこなわれ、院内集会には、自民党最賃一元化推進議員連盟の務台事務局長(衆議院議員)をはじめ、立憲民主党、国民民主党、日本共産党、れいわ新選組、沖縄の風の衆参国会議員10人があいさつに駆け付け、その場で「全国一律最低賃金制度を求める請願署名」を手渡しました。

昨年上回る一次回答も要求額にはとどかず JMITUがリレーストライキ

JMITU埼玉地本は3月7日(木)に、会社側から前日6日の第1次回答を引き出した結果を受けて、要求額との関係で不十分というところで、4つの職場(支部・分会)がリレーストライキに決起しました。

ストライキに決起した支部・分会は、東鋼業支部(八潮市)、大東工業大宮分会(さいたま市)、東京セキスイハイム支部(蓮田市)、日信工業支部(栃木県野木



東鋼業は門前でスト

町)です。ストライキ支援メンバーは午前8時前に東武鉄道・新越谷駅西口付近に集合、乗用車で東鋼業に向かいました。埼玉連から新島議長も帯同しました。東鋼業では指名ストに決起、午前8時30分から30分間、敷地内でスト決起集会を実施しました。続いて午前11時から大東工業大宮分会でスト決起集会を実施。さいたま地区労・前島議長が支援にかけつけました。東京セキスイハイム支部は午後1時に集合、準備をして1時30分から30分のストライキに入りました。蓮田地域労連から4人が支援にかけつけ、埼玉連からは宍戸事務局長がバトンタッチで参加しました。最後は泉田委員長の職場である日信工業支部です。午後3時10分からストライキに決起、地元・栃木県労連の下都賀地域労連も支援にかけつけました。JMITUは春闘最大のヤマ場である13日の第2次回答を引き出し14日の統一行動に決起する予定です。

医労連が経営者要請を実施 全医労は23春闘妥結でスト回避

埼玉医労連は2月22日(木)に経営者要請行動を実施し、単組から埼玉民医労、群馬・長野・栃木・東京の医労連のほか、みさと協立病院に三郷市労連、医療生協さいたまに川口地区労、埼玉連から宍戸事務局長が駆けつけてくれました。

最初は午後1時から、みさと協立病院への要請でした。群馬県医労連の代表が統一要請書を渡し、ベースアップの切実さや職員の現状を訴え、3月13日(水)に誠意ある引き上げ回答をするよう要請しました。回答指定日当日に病棟



経営者要請で訴え

の引越しを予定しているため、労組側は交渉をしっかりと行うように予定変更することを合わせて要請しました。

2件目は午後3時から、医療生協さいたままで実施しました。長野県医労連の代表が統一要請書を渡し、診療報酬分を基本給に組み込むこと、これ以上の人員不足を招かないよう、赤字であっても賃上げを行ってほしいことを要請しました。管理側からも、処遇改善の補助申請を行うこと、職員と協力して経営改善の手立てをつくっていきたいと回答がありました。

2月29日・3月1日 も要請と宣伝行動

埼玉医労連は2月29日(木)午後、熊谷総合病院に経営者要請を行い、24春闘要求に対して、3月13日(水)の全国いっせい回答指定日に誠実に回答するよう要請しました。地元の熊谷地域労連から竹内議長、埼玉連から宍戸事務局長が参加しました。



東埼玉病院は入口でアピール

また翌日の3月1日には、埼玉医労連加盟の全医労・東埼玉病院が午前8時30分から門前宣伝行動を実施しました。

全医労では23春闘が妥結しない深刻な状況でしたが、3月1日にストライキを構えて交渉した結果、経営者側が11月の給与金額から大幅に引き上げる回答を提示したため、ストを回避し宣伝行動を全国で展開したものです。東埼玉病院には地元・蓮田地域労連、地元のJMITU東京セキスイハイム支部のほか、埼玉連から加藤幹事が支援に駆けつけました。

(埼玉医労連発)

AOI労連が春闘宣伝 翌日にはストライキ支援

AOI労連は、3月14日(木)「春闘統一回答指定日翌日の宣伝行動」に取り組みました。大手企業が満額回答とか要求額以上の賃上げ等の報道があった日です。中小・零細・下請けの労働者にはその流れが来ていません。流れを変えようと、上尾駅西口で6組織8人が参加し、チラシを配りながら「労働組合は、雇用・賃金・生活を守るためにたたかっています。実質賃金が減り続け、低賃金と物価高騰で多くの国民が苦しんでいます。最低賃金は1500円以上に！ケア労働者の賃金を上げて医療・福祉を守りましょう！」などと訴えました。



上尾駅にて

15日(金)の午前は、郵政産業労働者ユニオン埼玉支部の仲間が



上尾郵便局前でスト支援

上尾郵便局前で1人がストライキ決行！というところで、支援集会に参加しました。「日本郵便は人員不足を理由に土曜配達を休止し、秋には料金値上げも予定されているが、多くの内部留保を抱えながら働く人には回さない。時給の賃上げはないと回答した」との報告があり、参加者も怒りをともにしました。元中央本部役員や神奈川の仲間・AOI労連のメンバー・市民が連帯のスピーチを行い、終日行動となる郵産労の仲間を激励しました。

(AOI労連発)

所沢地区労が介護について学習

所沢地区労は2月20日(火)午後6時30分から「24春闘埼玉ビッグアクション」を所沢地区労会館で開催しました。地区労では、今年度の取り組みとして介護ケアユニオンを結成し介護労働者の職場や待遇改善を掲げています。その取り組みの一つとして、日本医師連の寺田さんを講師に介護職場の現状を学習しました。

寺田さんからは、介護労働者の賃金が低く仕事がつらい実態、外国人労働者は日本ではなく他国に行ってしまう、さらに日本人も海

外へ行ってしまっているというようなことが報告されました。参加者で介護労働をされていた仲間からも「入職してもすぐに辞めてしまう職場の実態」などの発言があり他の参加者に対し切実な訴えがされました。参加された方は皆、介護に働く仲間が集える場として、介護ケアユニオンが必要であり、そして介護に働く仲間が1人でも多くケアユニオンに結集して、介護の未来を明るくしていく取り組みが必要だと意思統一をすることができました。その後、



介護の実態を学習

自治労連は24春闘を意志統一

自治労連埼玉県本部は3月17日(日)に、24春闘期の節目の意思統一、再決起の場として位置づけた第5回拡大単組者会議を開催しました。

当日は、2月の中央委員会決定した自治労連埼玉県本部24春の運動方針に関わって、これまでの県本部・単組運動の到達を確認するとともに、6月末まで続く春の

運動方針のこの先の重点となる運動について意思統一を図りました。特に賃金闘争に関しては、大企業で「満額回答」「要求以上」の賃上げがすすむなかで、公務員賃金を底上げするためにも、全労連・埼玉連傘下の中小企業・ケア労働者組の賃上げ運動に地域から合流すること。また、地域手当の

「大きくり化」にむけた運動を積極的にすすめること。さらに、公務職場で、賃上げの必要性に確信を持って要求していくために埼玉連がこれから提起する「最低生計費調査」に、すべての単組が目標を持ち、「24春の運動」の最終盤の運動として、執行部はもろろん組合員への働きかけしながら取り組んでいくことを意思統一しました。

それぞれの団体からの取り組み報告がされ24春闘をともに頑張る決意を固めました。3月7日には、ビッグアクション第2弾として4駅宣伝を予定しています。(所沢地区労発)

(自治労連県本部発)

新加入者の歓迎と働く者の権利を学習 埼教組が冬のコンパニー開催

埼教組は2月23日、埼玉教育会館2階で「冬のコンパニー」を開催し、41人が参加しました。冬のコンパニーは、埼教組に新しく加わった仲間をみんなで歓迎し、ともに学び合う学習会です。

第1部は、全労連議長・小畑雅子さんを招いて「子どもたちの幸せと働く者の権利を守る」全労連結成34年間の運動から学ぶ」。

と題した講演を行いました。

小畑さんは、全労連結成以来の積極的なたたかひの伝統を引き継ぐ、「たたかう労働組合のバージョンアップ」について講演し、議論することや徹底した学習をもとにたたかうことの大切さを伝えてくれました。

第2部は、新規加入した組合員を歓迎する会でした。青年部の2人が司会を務め、インタビュを交えながら新しい仲間を紹介してくれました。

小畑議長の講演



特別支援教育に係る校内での共通理解

に悩みながら日々奮闘する方、パワハラに悩むなか埼教組に加入した人、青年部主催の採用試験講座への参加から加入した人など、新しい仲間をみんなで歓迎しました。

(埼教組発)

川越地域で春闘勝利・地域集会

2月27日(火)ウエスタ川越にて、春闘勝利・地域集会が行われ、川越地域の労働組合、個人など45人が参加、講師である税理士

浦野広明さんから「岸田減税の嘘を暴く・軍拡増税を許すな」をテーマに講演が行われました。

浦野氏は問題になっている自民党の政治資金パーティーの裏金について「脱税以下の重大犯罪」と指摘、企業による賄賂によって国政をゆがめ、国民に害悪を及ぼす

「企業・団体献金」の全面禁止が必要だと強調しました。

次に2024年度一般会計予算について触れ、岸田政権は、閣議決定した5年間で43兆円の大軍拡の実施を行うおとしとして、その財源として社会保障費の大削減と消費税率の引き上げをしようとしていると指摘。相手側に攻撃を思

いとどまらせる手段は、防衛力ではなく、外交や経済関係の強化により国と国とが信頼しあうこと以外ないと強調しました。

浦野氏は本来、各人が経済的な負担能力に応じて税負担をする応能負担原則に従うべきだが、日本は消費税中心のために、大企業ばかりがもつて、財源をため込んで

いる現状を指摘しました。最後に税・財政は権力の手の中にあり、それを国民のものにするには「生活をよくする運動」を「不断の努力」によって積み重ねるしかない結びました。

講演を受けて質疑を行い、最後に埼玉建道祖土支部長の閉会あいさつと「団結カンパロウ」3唱で集会を終了しました。

最低生計費調査に協力を！

埼労連は4月から最低生計費調査を8年ぶりに実施します。

この間、「最賃時給は1500円以上に」「全国一律最賃制度の確立を」と最賃闘争を進めきました。埼労連は8年前の2016年に最低生計費調査を実施、20代単身者が憲法25条にある健康で文化的な生活を送るには、時給で約1500円、月収で約24万円(税・社会保険料込み)必要という結果

が出ました。

前回調査から8年が経過し、消費税は10%に増税され、コロナ禍、異常な物価高騰のなかで、「最賃時給1500円以上」「全国一律最賃制確立」はますます切

実な要求になっています。その裏打ちとなる調査として、新たな最低生計費調査に取り組みます。生活実態調査と持ち物調査を行い、2016年時より多い200

0枚の回収をめざします。簡単な調査ではないため、各組合で、組合員以外の方を含め調査をお願いしたい人と対話することが大事になります。新加入者の歓迎会や春の拡大月間をすすめるながら、最低生計費学習会や調査票記録などを具体化しましょう。

4月10日(水)に最低生計費調査スタート集会を午後7時から8時30分までオンラインで開催します。単産・地域組織で集まってオンライン参加してください。

福祉保育労が統一行動に結集

福祉保育労は、3月14日の全国統一行動に様々な形で結集、中央本部の厚生労働省内政府交渉には組合員15人が参加しました。

要請内容は、①「福祉労働者と全産業平均の月額7万円の賃金格差の解消」、②「福祉職員の増員による長時間・過密労働の解消」、③「災害対策の強化」、④「パワハラ防止対策の徹底」の4点を、国の責任で早急におこなうことです。

こうした要請の背景には、①加算による処遇改善策では、全産業平均との賃金格差は埋まらず、2月からの介護・障害福祉職員の6千円賃上げ補助金や報酬の引き上げでは、十分な賃上げはできない、②現場実態とかけ離れた職員配置基準によって長時間・過密労働が強いられていて、4・5歳児の保育士配置基準引き上げ相当の加算などでは増員につながらない、③能登半島地震では、福祉避難所の指定を受けている福祉施設が機能せず、今後の災害対応への不安が広がっている、④福祉現場

では、法律で義務化されて2年が経過するパワハラ防止対策が遅れていることがあります。

当日は、埼玉県本部の各分会でも、中央行動に呼応して、朝・昼・夕方の職場内集会やワッペンシールをつけて仕事をするなどの行動に取り組みました。

さくらさくらんぼ第二さくら保育園分会さくらんぼ班では、朝日新聞朝刊を読んだ組合員から「賃上げ、大企業並みにしてほしい」と声が上がりました。

県本部全体では、7分会、19職場、305名参加の統一行動でした。



さくらさくらんぼ分会さくら班

所沢地区労がいつせい宣伝行動

所沢地区労は3月7日(木)午後6時から7時まで、主要駅の所沢駅・新所沢駅・小手指駅・東所沢駅の4駅で春闘宣伝行動を行いました。全体で8団体54人の参加でチラシ2000枚を配布し、埼玉連が24春闘時期から6月まで取り進む最低賃金1500円以上を求める署名は10筆が集まりました。

事前にポケットティッシュにチラシを折り込み配布したため、寒風のなかでの取り組みでしたが元

気よく行い、受け取りは大変良かったです。所沢駅での宣伝では、通りかかった女性が足を止め署名に協力して「頑張ってください」と声をかけていただき、男性からは「カンパをしたいんですが」と行動に対して賛同をいただきました。小手指駅で参加された仲間からは「受け取りがとてよく、そのなかでも学生の駅利用者が多く受け取りが良かったので元気が出ました」と感想がありました。

今年も4駅頭で取り組みました

第95回埼玉県中央メーデー

2024年5月1日に『第95回埼玉県中央メーデー』を、北浦和公園で開催します。

式典と文化行事の2部構成として、デコレーションコンテスト・抽選会も行う予定です。

メーデーパレード終了後の午後には、埼玉県と埼玉労働局への要請行動も予定します。

今年はいくくメーデーの開催となる

りますが、各加盟組合で、青年や女性・次世代層の仲間の参加を意識し、大勢で越してください。

第95回埼玉県中央メーデー成功への協力をお願いします。

今年はいくくメーデーの開催となる



所沢駅の様子

が、最後に会場ごと引き続き春闘に取り組み確認をして解散となりました。

(所沢地区労発)



昨年のメーデー

安心安全な住環境について学ぶ

第2回福祉共済セミナー開催

3月9日に埼玉連労働者福祉対策委員会と埼玉共が「第2回福祉共済セミナー」を埼玉会館で開催しました。

今回のセミナーは、近年自然災害が多発している状況を踏まえ、安心安全な住環境をどう維持すればいいのか、13年前に発生した東日本大震災により防災意識が高まる3月、また、今年の元日に発生した能登半島地震で2カ月以上経過していても、なかなか進まない復旧状況をみたと、万一の備えのひとつとして知っておきたいことを重点にしました。

こくみん共済coopから事業推進部の増田次長を招き「住まいの保障へのアドバイス」として、近年の自然災害状況と共済金支払



いの実態および特約有無による給付比較から備えの必要性和検討ポイントについての説明。次に上尾市建築安全課において業務に従事していた自治労連の西口委員長から「安心して住み続けるための住宅豆知識」として、住まいの安全3つの備え(住宅の耐震改修、家具の転倒防止、プロック塀等の安全対策)の具体例と行政およびサポーター制度の紹介についての説明。その後、参加者と質疑を行い深め合いました。



住まいについて学習

参加者からは「勉強になった」という感想と、今後のテーマとして年金、資産形成、保険見直しなどの要望が多く寄せられました。仲間同士の助け合い「共済」推進に向けて引き続きセミナーの開催を計画していきます。

4月の上映案内

4月の上映は「高野豆腐店の春」です。

職人気質で愚直な父と明るく気立てのいい娘が尾道を舞台に豆腐作りと商店街の仲間たちとの和やかな時間を過ごす日常。そんな日常から「変わらないもの」と「変わっていくもの」を丁寧に描き、この時代を懸命に生きる人々に一筋のひかりを届ける映画です。藤竜也、麻生久美子らが出演しています。

4月26日(金) 埼玉会館小ホール

- ① 10時30分
② 14時
③ 18時30分

*埼玉共専用当日精算券の利用で900円でご覧いただけます。



フードバンク 第97便

各単産・地域組織で保存食品を提供するフードバンクの取り組みの具体化をお願いします。

2月のフードバンク活動は、埼玉建保組合からスティック飲料セット2箱、缶ジュースセット1箱、非常食リゾット5箱150食分の合計76・85キログラム、S Uからは缶詰、乾麺、カップ麺、粉末味噌汁など2・9キログラムが寄せられ、合計79・75キログラムを、第97便として、3月1日(金)にフードバンク埼玉の窓口・埼玉労協に搬入しました。貧困と格差の是正、食品ロスの運動でもあることから、引き続き



フードバンク第97便